カトリック高松教区報

2008年1月1日（第121号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

UNITATEM SPIRITUS

福音宣教を大切に

高松教区長　溝部　脩

四国に来て四年目、少しずつでも四国の風土に自分がなじんでくるのを感じています。とても穏やかで優しい風土だと思っています。その間に四国の歴史に触れる機会にも恵まれ、自然と歴史は風土を作り出す最大の要因であることを思わせています。何といっても四国は仏教の土地であり、宗教心はあつい土地です。それだけに容易に他の文化も受け入れ、そしてそれを自分のものとして取り入れる柔軟性があるのでしょう。

昨年私たちは「四国への福音宣教」という目標をたてました。この一年間を振り返って、どのくらい「福音宣教」という意識が芽生えたことでしょう。抽象的な感じがあって、なかなかつかめないかもしれません。昨年の「福音宣教」誌（一〇月号）に二人の司祭がこの問題について面白い記事を載せています。来住神父は、どれだけ福音宣教のために時間をかけるかを考えなさいと勧めています。同じことをしても「み国のために」と捧げるならば、それが即福音宣教となるのです。ご飯をつくることも、仕事に行くことも、全部「み国のために」あれば良いのです。この意識化がまず第一歩です。これは誰でもができるやさしい手段です。

11月17日高松教区青年の集いにて
講演後の分かち合い（於鳴門教会）

晴佐久神父は、「福音宣教」は「ことばを宣言する」ことだと説いています。自分が本当だと思ったことを伝えることです。そのためには、自分が信念をもって伝えることばを持っていなければなりません。しかも、相手に伝わることばである必要があります。私たちは、一日の中で多くのことばを発しています。自分がこれだけは伝えたいことばを自分に言い聞かせる習慣を、一日のうちにほんの少しでも持てば多くが変わります。四国の土壌に伝わることばとは何でしょう。このことも私たちの教会で話し合いたいものです。しかも晴佐久神父は「宣言する」ということばで話しています。宣言するとは、はっきり自分の信念を伝えるという意思表示があります。曖昧模糊としたことばで逃げて回るのではなく、自分の信仰に自信をもっている人の生き方をさしています。

新年の初めにあたり、「福音宣教」を考え始めています。次号からもこの点について考えていくことにしましょう。最後になりましたが、皆さんの上に今年もより豊かな恵みが溢れる年となることをお祈りいたします。

主な記事

2～3面　小教区新年の抱負
4～5面　委員会報告
　　医療のともしび
7面　講座案内
　　WYD募集
8面　お知らせコーナー

はばたき

新年を迎え、溝部司教様の下、教区一体となって、より一層の「はばたき」を実現できるよう神のお導きを祈りましょう▼二十世紀は領土あるいは石油をめぐる紛争が頻発しましたが、二十一世紀は水紛争の時代になると言われています。地球上の陸地面積の約四五％が国際河川流域であるという現実を考えると、残念ながら否定できかねます。四国でも、水不足に悩まされたり、逆に、洪水を心配したりするケースも少なくありません。最近ではこうした水量だけでなく、水質・水環境の問題も発生しています▼我が国の食料自給率（熱量ベース）が四〇％を下回るほどに輸入に頼っているということは、それだけたとえば畜産物の飼料を栽培するための水を外国から大量に間接的に輸入しているということを意味します▼私たちの生活の中で水は不可欠ですが、平素は意識されることのない存在になってはいないでしょうか。聖書の中で具体として、また徴としてしばしば登場する水に関し、考え直してみませんか。こうした目で改めて聖書を読み直してみませんか。

新年明けましておめでとうございます

小教区　新年の抱負

赤岡教会

少子高齢化の進む赤岡教会ではありますが、ゴミサ後のひとときにはお茶を楽しみながらシモンズ神父様や武田先生のお話を伺うなど、日本一家庭的な教会を目指しています。どうぞ皆様もお越しください。

安芸教会

「祈りと宣教」を中心に据えます。キリストの愛と平和が広がり満ちていきますように。聖書に親しみ、宣教に役立てることを願い、教区の人々が心安く教会を訪れる年となりますように。

土佐神父を囲んで

阿南教会

「省エネで　光る教会　わが阿南」小人数の教会ですが発光ダイオードのように華やかでなくても静かに光を放ちつづける教会でありたいです。また郷土の殉教者、結城了雪神父を身近に感じた今、福音をのべ伝える教会へ決意を新たにしたいと思います。

伊予三島教会

新しい一年がはじまった。遠く祖国を離れて新年を迎える人がいる。いろんな国からこの教会に集まった。皆心を一つにして福音を伝えるためにがんばります。

宇和島教会

新年おめでとうございます。神様から戴いた新しい年を新しい心で迎えましょう。高松教区が神様から沢山のお恵みと祝福を戴くように願って祈ります。（主任司祭ラファエル・カストロ神父）

教区方針に従い評議会発足が、本当の意味での小共同体を目指して行くには希求の課題は何か、課題への取り組みのやり方について考え方をはっきり意識。できるだけ皆が知恵を働かせ活き活きとした評議会となるよう、それぞれの役割をもって互いに励まし合い、助け合い、働く喜びを見いだしましょう。（信徒会会長中平荘作）

宇和島教会聖堂

江ノ口教会

今年の江ノ口教会は、降誕祭から続く平和への祈りで新年を迎えます。江ノ口教会宣教司牧評議会は、四月で発足から一年になります。中島町教会との連携のもと、地区協力宣教司牧の態勢づくりをすすめていきます。

郡中教会

お互いにキリストに導かれた「愛」を持って、教会の自立と協力宣教司牧の道を歩んでいきたい。

西条教会

小さな教会ならではの交わりを保ちながら、信徒一人ひとりが個性を発揮し、一致してキリストの愛の実践に励み、子どもたちと共に歩み、信仰を育み、そして、キリストの愛を一人でも多くの人に伝えて行きたい。

坂出教会

肩の力を抜いて誰もが集える教会。ともに神のことばを聴き、ともに賛美し、ともに語り、ともに地域の人々のために祈る、キリストの証となる教会でありたい。

桜町教会

協力宣教司牧を理解して充実したものとできるよう努力したい。

列福される一八八殉教者と地元の殉教者アントニオ石原孫右衛門の生き方について学びたい。

石原孫右衛門父子像

三本松教会

新しい年を迎え、私達の三本松教会は、信徒数大人二二名、子供九名の小さな教会ですが、ネルソン神父様を中心として、神に感謝し、何時も喜び、絶えず祈り、互いに赦しあい、助け合って行く教会にしたいと思っています。

善通寺教会

二〇〇六年より「聖体」をテーマにしています。永遠のテーマです。今年も私たちの信仰の源泉「聖体」をテーマに主日のミサ聖祭をより深いものにしていきたい。

道後教会

ともに神に向かって歩むほのぼのとした教会共同体づくりをめざす。主日のミサ、典礼行事、バザー、巡礼の旅など年間行事の中で信徒の一致をはかりながら、来年の献堂五〇周年に向けて準備に力を入れる。

徳島教会

ここ数年、徳島教会は神の取計らいと恵みの中で大きな行事を与えられました。これら全てに感謝し、今年も共に歩み開かれた教会を心掛けます。そして、一一月の列福式には大勢で参加できるよう共同体を温めていきたいと思います。

隣接する城東高校の生徒・教師あわせて５１名が授業の一環として教会に来て下さいました

中島町教会

昨年に引き続き分かち合いをもちながら、共同体や各委員会がどのように拘わっていけばいいのかを模索しつつ、活動の方向へ一歩前進する。

中村教会

１　中村カトリック教会の諸聖人と死者の記念のミサに、オブレート会のフィリピン人ブラザーベルナルドＯＭＩが参加しました。大神学の勉強を終えてから日本で働きたいのです。信徒が助けあって神父様をバックアップするように心がけます。

２　外国人から「初級の漢字を習いたい」との要望に応えて、チームを組んでそれに取り組みます。

鳴門教会

尽くす喜びを！

イエスの誕生に始まるいのちの秘儀は、ひとが神の愛に応える道になっています。私たちは尽くす心でこの道を歩みます。その心を育むミサを大切にし、平和のために尽くしましょう。

新居浜教会

主任司祭の去就一年有半その過渡期を終え、小教区の一致に向けて、司祭と共に信徒の積み上げてきた自立をさらに向上推進させたい。

番町教会

協力宣教司牧態勢により、「信徒の教会」を目指して、一人ひとりが司祭と協力して、聖霊に満たされた神の国の教会づくりに努力したい。

松山教会

「暗いと不平を言うよりも、すすんであかりをつけましょう」～互いのよさを認め合い、足りないところを補い合いながら、訪れる人の心が温まる教会にしてゆきたい。

八幡浜教会

八幡浜教会は、今年はよりいっそう信仰の喜びを現していきたいと思います。キリストとの出会いから生まれる、家族のような心の交わりと平和が目標です。

委員会報告

司祭評議会報告
高松教区の一致を目指して

事務局長　西川康廣助祭

去る一一月六日（火）第八回司祭評議会を開いた。主な議題は次の通りである。①一一月二一日に池田で開催予定の「高松教区全司祭集会」準備について②福音宣教推進全国会議開催（ＮＩＣＥ１・ＮＩＣＥ２）から二〇年経過した現在、ＮＩＣＥを振り返る準備会について③二〇〇八年オーストラリア・シドニーで開催されるワールド・ユース・ディ（ＷＹＤ）と山中湖で開催する国内版ＷＹＤについて審議した。

①「高松教区全司祭集会」は、パネルディスカッション形式で行う。パネラーには司祭評議会代表、宣教司牧評議会代表、協力宣教司牧代表、国際神学院代表が立ち、それぞれの立場から問題提起及び提案を発表する。司会は大阪教区・聖トマス大学長の小田武彦師が務める。この会を教区にとって前向き、積極的前進への転機とし、溝部司教が推進する『協力宣教司牧態勢』構築に一層しっかり取り組む機会とする。

②「ＮＩＣＥの振返り」準備会に関しては、司祭集会準備委員会（事務局長をはじめ宣教会・修道会・教区司祭代表、計五名編成）で今後の具体的取り組みを検討し、小教区、司祭評議会・宣教司牧評議会の協力を得て対応する。これは日本の司教団から寄せられた質問書に、各教区が答える内容のものである。

質問内容は次の通り、（イ）ナイス運動について、教区ではどのような反響、問題、課題があったか。（ロ）「ともに喜びをもって生きよう」（司教団文書）の精神をどのように生きているか。

③ＷＹＤinシドニーの開催時期は、特に学生にとって参加しにくい時期ではあるが、できるだけシドニーの国際青年大会参加へ向けて努力を促す。国際大会に参加できない青年たちのためには、山中湖での国内版青年大会に参加を促す。また、この両ＷＹＤ参加のための予算と準備会について検討した。

第五回 宣教司牧評議会役員会
一一月一六日

事務局長　西川康廣助祭

・高松教区の信徒グループより、宗教法人カトリック高松司教区の責任役員会・溝部脩代表役員と責任役員宛に質問状が寄せられた。

教区顧問会（九・二五）と司祭評議会・責任役員会（一〇・二）において諮った質問状への回答を提示した。回答書には事実は事実として調査に基づく結果が報告されていた。調査は教会法上と宗教法人法に照らし、神学院設立に当たり手続き上の問題はなかったか、神学院運営上の不備はなかったかを精査した結果・内容だった。精査過程の中で、神学院設立時には、高松教区の長年の歴史の歩みの中で旧体制からなかなか脱却できないまま、教区内に閉塞感と行き詰まりが生じていたことが見えてきた。この状態を打開する意味もあって、神学院が発足したと思われる経緯がある。しかし、きちんとした合意がないまま発足したために、逆に対立を呼び起こす引き金となってしまった感がある。対立関係の打開には、お互いにある程度の譲歩が必要だ。問題解決へ向けてどうすればよいか模索中である。

・隣家購入の件

桜町聖母幼稚園南側隣接二軒の家（土地約二〇〇坪）が売りに出されている。教区・桜町教会・幼稚園にとって駐車場問題は、慢性的に大きな悩みの種であることは周知の通りである。問題解決のためにもこれを好機と判断し、土地購入を前向きに検討中。現在土地購入資金繰りをどうするか、検討中である。

医療のともしび（7）
～医療は誰のために～

わが国の医療制度は先進諸国のなかで平均寿命が世界一長いことや乳児死亡率が低いこと、そして医療費の国民負担が少なく皆保険制度である事など、世界的に見ても高い評価を受けている。さらに国民一人当たりの医療費はＧＤＰ比（国民総生産比）にしてアメリカの２分の１、ドイツ、フランスの３分の２であると言う。まだそれだけではない。医療現場で直接患者を診たり世話をする医師や看護師は先進諸国の水準に比べ極端に少ないと言われている。言ってみればわれわれは少ない人数で、なお且つ低い診療報酬（医療費）のなかで、身を粉にして働き最高の医療を提供しているわけである。しかし残念ながら国はこれらの事を全く評価せず、年々上昇する医療費を削減するため２度にわたって診療報酬マイナス改定を断行した。さらに小泉前政権はこれらの実態を全く理解せず郵政民営化と医療制度改革は何としてでもやり遂げると言って医療改革関連法案を国会に提出して成立させた。日本が世界に誇る国民皆保険制度をこのまま維持すると財政負担がどんどん膨らみ国が潰れると言っているが、それは絶対にありえない。アメリカは別としてドイツやフランス、スイス北欧の国々は、わが国よりもっと多く、国が財政負担をしている。

教育や医療、福祉が充実していない国は、発展がなく国民も安心して生活できないし、いずれは国の衰退につながると思う。

愛媛労災病院　篠崎文彦

高松教区全司祭集会が開かれる

事務局長　西川康廣助祭

一一月二一日（水）三好市保健センター（池田）において、高松教区で働く全司祭の一日集会を開催した。合計四〇名の参加があった。

この会の開催に至るまでの経緯は、司祭評議会における「教区で働く司祭の交流が少ない」という反省から始まった。今まで高松教区で働く司祭の交流は、「聖香油の祝別ミサ」と「司祭研修会」の年二回だけだった。司祭間のコミュニケーションを密にするためにも、もっと出会いの機会を増やし、ともに祈り、学び合いながら、教区の宣教司牧に関する問題点などを話し合う機会を増やす必要性を感じたのである。

そこで司祭集会開催に当たり、先ず準備委員会を設立した。メンバーとして教区事務局長をはじめ、宣教会・修道会・教区司祭から各一名ずつ合計五名編成で組織作りをした。そして春と秋に一泊二日の研修会と黙想会を高松で開催し、間で池田において一日司祭集会を二回開催することに決定した。そして今回は特別な目的をもって、第一回司祭集会を池田において開催した。

溝部司教は、『高松教区の一致のため』という特別の使命を受けてローマ教皇から高松教区に派遣された。溝部司教着座から三年が過ぎた今、司教が教区の一致へ向けてこれまで取り組んで来られたこと（教区事務局の整備、司祭評議会・宣教司牧評議会の設置、諸委員会の設置など）を回顧しながら、次の段階へ向う時期に来たと判断した。それは、教区の一致へ向けてどうしても避けて通れない、新求道共同体の道を歩んでいる人たちと、どのようにすれば、教区方針である「協力宣教司牧態勢」へ一致して向かうことができるか、その接点を高松教区で働く全司祭で話し合うことだった。この件に関して話し合うことは、これまで教区内でタブー視されてきたように感じられた。

司祭集会はシンポジウム形式で開かれた。司会は大阪教区・聖トマス大学長の小田武彦師に依頼し、パネラーには神学院代表・司祭評議会代表・宣教司牧評議会代表・協力司牧代表が選出され、それぞれの立場から教区の一致へ向けての問題提起や提案が述べられた。その後昼食を挟んで午後からディスカッションが行われた。この間緊張感が終始漂っていたが、初めて教区でお互いの主張に耳を傾け合ったということは大きな意味があったと思われる。この会を通して何も結論にまでは至らなかったが、高松教区の協力宣教司牧態勢へ向けて、溝部司教を中心に一致協力していかなければならないという点において、共通認識を持つのに良い機会となったことは確かだ。

列福式に向かって

生涯養成委員会　Srメリー・ギリス

新年おめでとうございます。新しい年にお一人おひとりの上に神さまの祝福が豊かにありますように、また世界各地に真の平和が訪れますように祈っています。

日本の教会にとって二〇〇八年は恵みの年になります。現代の教会を生きる私たちは、一一月二四日長崎で行われる列福式に向かって「ペトロ岐部と一八七人の殉教者」の生涯に触れることによって、信仰をより豊かにする新しい命をいただけることでしょう。

高松教区では既に昨年九月一五日のシンポジウムを通して、殉教者の一人ディオゴ結城了雪神父の生涯に触れ、その時代の歴史的背景や教会のあり方を少し理解できました。これから約一年間、更に殉教者の生き方を通して、私たちの信仰生活がより生き生きとしたものになるよう、生涯養成委員会で講座を企画しました。その第一段階は「殉教者の霊性」と題して、一月から三月まで溝部司教様の講座を三回行います～ポスター参照。四月から殉教者の研究を専門的になさる方々を呼んで五～六回の講座を企画する予定です。

列福式の準備だけではなく、その他の講座も企画しました。何よりも嬉しく思うことは「若者と聖書」の講座の広がりです。二〇〇六年、一カ所だった講座は二〇〇七年の春から増え、五〇名の若者が学んでいましたが、一月からは六カ所になり、また人数が増えます。高松（二〇〇六年から）、高知、丸亀（二〇〇七年春から）、道後（二〇〇七年秋から）、坂出、鳴門（二〇〇八年一月から）～ポスター参照。

聖書、人生論、賛美の歌、イタリア語などの講座を通して神さまの愛に触れ、人と出会い、一週間のこの一時を楽しむ受講者が多いことが、企画する委員会として何よりの喜びです。もう一つ欲を言えば、この活動が「宣教」に繋がったら、なお意味のある企画になります。奮ってご参加なさると同時に、イエス・キリストをまだ知らない方を是非お一人でも多く誘ってくださいますように。

ミンダナオの風
～来なソンソン♪～

高松教区青年の集い
（一一月一七・一八日鳴門教会）
鳴門教会　野口あい

フィリピンの中でも貧しい地域、ミンダナオ島でイチからＮＧＯを立ちあげ、活動している松居友さんを招いてお話を伺った。

難民キャンプでは、子どもたちは表情をなくしてしまうという。

子どもの心の平和のために絵本の読み聞かせをしに行く。

松居友さん

そうするとだんだん笑顔が戻ってくる。

もちろんお腹はすかせているだろうけど、ものではなく読み聞かせという活動が心に希望をもたらしてくれる。絵本の編集者をしていたという松居さんならではのやり方だと感じた。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる。」（マタイ四章四節）

聖書の箇所が浮かんだ。

始まりはゲームでお楽しみ

地区だより

バイリンガルミサ
国際色豊かな交流が大成功

中島町教会　吉竹圭子

二〇〇七年四月に発足した国際協力委員会主催のバイリンガルミサが無事に終わって、胸をなでおろしています。英語ミサに参加している方々から「フィリピンで大々的に祝う『聖母被昇天の祝日』に近い日にバイリンガルミサを」という要望があり、日本の一大行事である『お盆』が過ぎた八月一九日を、その日に設定しました。更に、昨年のフィリピンフェアに代わるもの、午前ミサと午後ミサのメンバーが、仲良くなれるようにと、昼食と交流会も加えて、ミサの時間を一一時としました。典礼委員の方々とのプログラム作成、行事委員・日曜学校の担当者、その他手伝ってくださる方々とも打ち合わせをした上で当日に臨みました。ミサには、大阪での世界陸上競技会に参加するポーランドの選手たち、フィリピンに加えてコスタリカ、インドネシア、アメリカの人たちの姿もあって、国際色豊かなミサとなりました。日本語と英語による司会を、午前と午後のミサ参加グループから一人ずつ立てたこと、英語による『あわれみの賛歌』タガログ語による『答唱詩編』など、全く新しい試みも大変うまくいき、Br八木のオカリナ演奏はしみじみと心癒されるものでした。さて、昼食の準備は、色々な方が手伝って下さいましたが、予定のメニューの他にも色々と持ち込んで下さったものがあって、バラエティ溢れる昼食会となりました。バンブーダンスの挑戦者は次々と出て、カラオケも皆で歌う歌あり、個人ののど自慢ありと、研修室に一杯の人々が夫々に楽しんでいらっしゃる光景を目の当たりにして、試みは成功だったとの思いを強くしました。また、「よかった」という声を皆様からいただき、喜んでいます。ご協力に感謝！

バンブーダンスに挑戦

信仰の喜び

善通寺教会　セシリア　山本　香

二〇〇七年復活徹夜祭、私はこの時の喜びを忘れる事はできないでしょう。

人生とは思い通りならないものです。最悪の状況に陥った時、こんなはずではと思い、それを他人のせいにしたり、恨んだりします。私もそんな人間でした。しかし神さまは自分勝手で愚かな私を、お見捨てになりませんでした。

色々な事で苦しんでいた時、聖書に出会いました。心をひかれもっと知りたいと思っていた頃、神さまは私に素晴らしい方との出合いをお与えになりました。後に私の代母となって下さる方です。仕事で知り合ったその方との出合いは、私にとって全く絶妙のタイミングであり、まさに神さまのお導きというほかありません。その方にお願いして御ミサに参加させていただき、聖書の研究会で勉強する事になりました。そして遂に感動と喜びの中、洗礼を受ける事ができました。

私は今、毎日を幸せな気持ちで過ごしています。そして日曜日の御ミサを、子供のような素直な気持ちで楽しみにしているのです。教会でのあの幸せな気持ちを、何と表現すればよいのでしょう。神さまと共に生きる喜びを、感謝せずにいられません。

洗礼を受けたばかりのひよっ子信者の私を、神父さまをはじめ教会の皆さんが助け、導いて下さいます。感謝を忘れずこれからの信仰生活を送っていこうと思います。

堅信準備会で合宿
一九名の中高生が有意義な時間を

桜町教会　多田東臣

高松地区協力宣教司牧ブロックでは来年の聖霊降臨祭を目標に、中高生十数名が集まり、月一回の堅信準備会を開いている。

三回目となる一一月一〇日には初めての合宿を行なった。一九名が集まって佐藤神父の指導によりパワーポイントを使った「堅信の賜物について」と題した講話を聞いたり、雨宮神父作曲の「聖霊来てください」という歌などを歌ったりして有意義な時間を過した。お母さん方が作ったカレーに始まり、晩の祈りで一日目を終えた。翌日は体験学習をし、ミサに与って解散した。両日とも聖霊のお導きにより充実したときを過ごすことができた。

夕食のひとこま

カトリック新聞に情報をお寄せください

カトリック新聞社では高松教区のニュースをもっと掲載したいと願っています。情報をお寄せください。

各小教区の新しい取り組みや話題、地域で活躍され宣教に取り組まれている元気な人など、さまざまな情報をお知らせください。

［情報提供先］

今泉芳純

（郡中教会所属＝089-982-2089 FAX共）

丸尾　修

（道後教会所属＝089-977-3930 FAX共）

講座案内

殉教者の霊性

― ペトロ岐部と187殉教者の列福に向けて ―
主催　カトリック高松教区生涯養成委員会

〔日時〕
2008年1月26日（土）
「ヨハネ原主水―『人生はやり直しがきく』」
2月9日（土）
「ルイス甘糟右衛門―『司祭不在の教会』」
3月8日（土）
「マリア小笠原みやー『永遠のいのちの教育』」
いずれも10:30～12:00
〔場所〕四国カトリック会館
〔講師〕高松教区司教　溝部　脩
〔費用〕１回につき1,000円

講座案内

若者と聖書（第Ⅲ期）

新年あけましておめでとうございます。
第二期「若者と聖書」に参加していただいた方には感謝と御礼を申し上げます。この度、第三期「若者と聖書」の開催について、ご案内いたします。価値観が混沌とした、現代社会の中で、聖書を知ることによって、聖書が現代に住む私たちに、何を問い掛けているのか？どのような歩みが求められているのかを、その学びとお互いの分かち合いを通して、共に見つめていきたいと思います。

右記の要綱にて実施いたしますので、今まで参加してこられた方、新たに興味関心をお持ちの方も、ふるって御参加ください。

香川 四国ｶﾄﾘｯｸ会館	2008年1月15日（火）～ 毎週火曜日　計8回	19時～
高知 中島町教会	2008年1月15日（火）～ 毎週火曜日　計8回	19時～
香川 丸亀教会	2008年1月16日（水）～ 毎週水曜日　計8回	19時30分～
香川 坂出教会	2008年1月16日（水）～ 毎週水曜日　計8回	19時～
徳島 鳴門教会	2008年1月17日（木）～ 毎週木曜日　計8回	19時～
愛媛 道後教会	2008年1月17日（木）～ 毎週木曜日　計8回	19時～

１回の講座は約90分

ワールドユースデイ（WYD）
シドニー大会
参加者募集開始

来年、いよいよワールドユースディの年となりました。
今大会は、オーストラリアのシドニーで行われます。同じ信仰をもった世界の若者達との触れあいを通して、自分に与えられた信仰の喜びを感じてみませんか？

大会期間：2008年7月13日（日）～22日（火）
募集期間：～2008年4月１０日まで
高松教区ＷＹＤ教区窓口
〒760-0074
香川県高松市桜町1-8-9　高松教区本部事務局
TEL　087-831-6659
FAX　087-833-1484
担当者　佐藤直樹

お知らせコーナー

筆山カトリック墓地（高知市）の管理についてのお知らせ

高知市にあります筆山カトリック墓地には１２１墓碑が立てられておりますが、遺骨を移された遺族の方々もあり、この１０年訪れる人無く、墓石も苔むし崩れかけ、無縁墓地になっているような状況です。つきましては、近々当墓地内の墓碑(石)を一所に集める作業を考えております。（遺骨等は現状のままです）。それに先立ち遺族及び縁故者の方々のご了解を頂きたく思う次第です。関係者の方がおられましたら、どうぞ墓地委員会にご連絡下さいますように、お願い申し上げます。

高知地区墓地委員会
代表　鶴見宗茂　088-875-3089

投稿記事募集

【テーマ】
テーマは、特に定めません。

【投稿要領】
字数は３００字以内（写真歓迎）
「所属教会名、住所、氏名」明記のこと。
中傷・誹謗はご遠慮下さい。
原稿はできるだけメールで送って下さい。
写真もデジカメで撮影したものはメールで送って下さい。

【投稿先】
メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
郵　便：〒760-0074
高松市桜町１丁目８－９
カトリック高松司教区広報担当
ＴＥＬ：087-831-6659

編集後記

新年号はカラー版です。本年度の広報委員は次の通りです。

指導司祭：浜口末男
担当司祭：佐藤直樹
委員長　：田井貞良
副委員長：多田　洋
編集委員：和泉文男・鶴見明彦・中川修栄・住吉才子
地区委員：今泉芳純・宮本匡士・高田芙美・小野雅之
技術委員：長谷川聖・竹葉純子
協力委員：丸尾　修・松本伸介

今年は一八八殉教者列福に向けて活気ある記事を載せて行こうと思います。

なおコラム欄「はばたき」の担当は高知地区赤岡教会の松本伸介氏にお願いしました。高知大学農学部の先生です。よろしくお願いします。

新刊図書紹介

病気になっても病人にはなるな
～病気中の内面的な歩み・生き方・闘い～

ウァルデマール・キッペス著

７ヶ月の間に、歯根の手術、心臓弁膜や白内障の手術を受けざるを得なくなった著者のスピリチュアルな歩みをこの一冊にまとめ、患者としての哲学をドイツ人の観点から述べている。

入院あるいは病気療養中の方、これからその必要性に迫られている方のみならず、病院、医療関係に従事されている方必読の本。

価格840円
発行所ユニカラー
Ａ６版103ページ
問い合わせ先
〒830－0061
福岡県久留米市津福今町459－10
電話0942（31）4834
イエスオンライン（担当 西出悦子）

お詫びと訂正

高松教区報１２０号「主な司教日程」の１１月２５日にある「被昇天聖母会」は「聖母被昇天修道会」に、また「列福記念祭」は「列聖記念祭」の間違いでした。お詫びをして訂正いたします。

主な司教日程

１月10日	（木）	司教勉強会（東京）
11日	（金）	列福委員会（東京）
12日	（土）	ヨゼフ会新年会（桜町）
13日	（日）	光が丘教会堅信式（福岡）
18日	（金）	ＷＹＤ準備会
19日	（土）	～20日（日） 宣教司牧評議会総会（松山）
22日	（火）	祈祷一致週間（坂出）
23日	（水）	諸宗教対話（善通寺）
24日	（木）	祈祷一致週間（高松・桜町）
25日	（金）	大阪管区司教会議
26日	（土）	殉教者について講義（高松）
26日	（土）	～27日（日） 高校生の集い
28日	（月）	～31日（木） ガリラヤの家講義（那須）
２月２日	（土）	大阪修道女連盟研修会
３日	（日）	右近祭（高槻教会）
11日	（月）	名古屋修道女連盟研修会
17日	（日）	芦屋教会研修会
18日	（月）	～22日（金） 臨時司教総会
23日	（土）	ＷＹＤカテケージス（広島）
27日	（水）	日韓学生交流会（長崎）